

NPO SCHOOL '99

学	級	ロマンと
通	信	ソロバン

(財)大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラムNPOコース事務局

書をもって、
まちにでよう。issue 5
1999.6.16

〒 603-8577

京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学衣笠研究支援センター気付 修学館238

Tel/FAX 075-465-1979

E-mail ohbora@jca.ax.apc.org

URL http://www.jca.ax.apc.org/ohbora/

前回のおさらい

第5回目のスクーリングは「NPOスクール言語表現基礎Ⅲ - ボランティアとNPOと「私」 - 」と題して、コーディネーターのこれまでの活動をケーススタディに、NPO インターンにあたっての動機の明確化について「考える練習」をしました。

-
- 18:30 ~ 席替え・はじめに (中村)
 - 18:40 ~ NPO 活動ケーススタディ
 - ~ 18:55 グループワーク
 - ~ 19:10 プレゼンテーション
 - 19:10 ~ プレゼンとまとめ (中村)
 - 19:25 ~ ボランティアとNPO と私
 - 春山文枝の過去・現在・未来
 - 質疑応答
 - 19:55 ~ まとめ (中村) 諸連絡
 - 市民的な活動の能動性を持つこととは
 - パソコン講座の連絡
 - その他イベント案内
 - 20:00 ~ 談話室にてサロン
-

前回の講義では、まず「A市に住みたいか？」という問いについてのディスカッションをしました。これについては1週間かけてそれぞれ考えてきたわけですが、まだまだ「事実文」を使って説得できた人は少なかったようです。

後半は「ボランティアとNPOと『私』」と題して、コーディネーターのこれまでの活動の話を聞きました。この日は春山さんの話を聞きました。春山さんの活動の初めの動機は熱帯林の伐採に対する怒りでしたが、現在では日本のNPO活動の発展を目指して活動・研究しています。それは、A SEED JAPANでの活動やコスタリカでの会議に出席したりする中でつちかわれました。それぞれの地域の人々はその土地やコミュニティに合った発展の方法を考えていくべきであり、そのためには市民活動をもっと活発にしていきたい、と考え、これまで活動してきました。これらの話に対して中村先生は次のようにコメントしました。

「ひとつひとつは偶然の選択ですけど、何かその人らしいものが見つがってきますよね。そのテーマを見つけてほしいんですね。そのテーマがあればインターン先に行っても大変重要な活動ができると思ってます。(中略)ぜひ優等生はやめてください。ぜひ批判的精神を持ってください。当たり前のようにして日常の出来事を話さないで下さい。自分なりの立脚点をぜひ持って下さい。」

皆さんもこれまでの経験やこれからの活動から、動機を考えていく知的作業を行ってください。そして、そのためにもいろいろな社会的諸問題に興味を持って、チャレンジしていけるといいですね。

data sheet	内容：グループワーク + プレゼン + ケーススタディ	欠席：池田さん・新野くん・茂籠さん(教育実習)
	NO.4 (6/2)	A市に住みたいと思うか? + コーディネーターの体験に学ぶ 課題：特になし

感想文から

今回の感想文もなかなか読みごたえがありました。まず、1の宿題「A市に住みたいと思うか？」についてですが、全員面白いように「意見文が書けなかった」と書いてありました。書けないことはみんなそれぞれにショックを受けていますが、ではどうしたらいいのか、がわからないのかもしれませんが。荒井さんは「データを調べたが、使い方がわからなかった」と書いています。三井さんも「事実文として本を丸写しにしたら、とても面白くない文章になった」そうです。

また、自分では事実文を作ってきたつもりだったが、発表したら意見文だった、という人も何人かいました。これに気づき、反省した人はすごい。逆に春山さんの話については「事実文だった」という意見が大半。う～ん。質問の仕方からそうなったのかな？春山さんは「行動力」があるからあーいったライフヒストリーをたどったんだ、と理解しているわけですね（名田くん、南さん、夏原くん、など）。そして、そのエネルギーはどこから来るのか（西川さん）と疑問に思っている姿が感想文にはありました。しかし、僕が春山さんの話を聞いて思ったのは「あのとき大学戻ってよかった」というせりふに象徴される、流されつつも自分の興味・やりたい気持ちに忠実な姿でした。「行動力」というより「自然体」（鈴木さん）とかかな。

3.の「NPOは“変わった人”がすることか？」についてですが、これは賛否両論。面白い質問だったと思います。僕としては地主くんの「ちょっとづつ変わっていない人も増えてきている。もっと活動がスマートになれば一般化すると思う」という意見が結構シンクロでした。変わっている人＝古い活動家モデルと捉え、市民レベルの活動にしていくなめには市民の感覚からずれてはいけないと思います。

ちょっと気になったこととして、主に反対派の意見で、あこがれや危うさを持って否定している人がいる気がしました。（「強さや熱さがあるから」「自分を貫き、社会を変えようとしていて素敵」「普通の人はお金を求める」など）

最後に、5.の「発見したこと」ですが、言葉不足、知識不足、型にはまった人生、自分壊しの欲求、中村先生に娘がいる、事実文が実は自分の中での事実でしかなかった、今日は珍しく僕も何かやれそうだと思えました...などがありました。

（桜井 政成）

事務局からの連絡

インターンシップの記録はしっかり残しておきましょう

そろそろインターンシップが開始した人も増えてきたと思います。ぜひ、インターンをした際にはその日の活動内容や感想について記録を残しておいて下さい。後からきっと、役立ちます、よ。

インターン先でトラブルが発生した場合は事務局／コーディネーターに連絡を下さい

インターンシップが始まると、事の大小を問わず、何らかのトラブルが発生します。その際には一人で抱えこまずに、事務局や担当コーディネーターに連絡して下さい。抱え込んでしまうと、事態はこじれていくばかりです、よ。

(財)大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム NPO コース
「NPO スクール」ニュースレター <学級通信「ロマンとソロバン」> 1999.6/16 第5号

編集長：山口 洋典 編集：赤澤 清孝・桜井 政成・竹花 由紀子・春山 文枝 発行：中村 正

< NPO スクール事務局 >

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学研究支援センター気付

TEL/FAX.075-465-1979

E-mail.ohbora@jca.ax.apc.org

URL.http://www.jca.ax.apc.org/ohbora/

< 財団法人 大学コンソーシアム京都事務局（担当：武田） >

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル同志社大学新町校舎臨光館3階

TEL.075-251-4685

FAX.075-251-4687

URL.http://manzoku.topica.ne.jp/daicen